



職員の方々が自ら柔軟に作成、公開、運用できる ツールも用意された、スマートフォンひとつで 行政手続きができる申請サービス。

「Graffer スマート申請」について

新型コロナウイルスの蔓延と長期化の見通しのなかで、自治体においては行政手続きのオンライン化へのニーズが加速しています。そんなニーズに応えるのが、スマートフォンひとつで行政手続きが行える「Graffer スマート申請」です。来庁せず、本人確認から決済まですべて手元で行えます。

開発要件・課題

緊急性や重要性の高い手続きの公開や処理から、職員の方々の負担を軽減するために。

コロナ禍における行政手続きのオンライン化には、市民の方々が手続きにかかる外出や密を減らすことができます。一方、それに対応する自由度の高いシステムがあれば、自治体職員の方々にとっても、補助金申請のようなコロナ禍によって発生する、緊急性や重要性の高い手続きの公開準備や手続き処理も時間短縮され、負担が軽減されるというメリットがあります。

- 多様な行政手続きを職員の方々が柔軟に作成、公開、運用できるオンライン申請のためのノーコード・ツールの用意。
- 地方自治体が安心してサービスを使うためには、LGWAN という地方自治体独自のネットワークに接続しなければならないこと。
- LGWAN に接続するための多数のセキュリティ要件を満たすこと。
- 地方自治体が安心して採用できる、多角的で高いセキュリティレベルを実現すること。
- コロナ禍の差し迫るニーズに迅速に対応するために、短期間でのスピーディな開発を実現すること。

約 3,000 万人の市民を対象としたプロダクトへ。

Graffer Platform は順調に利用が拡大し、全国 100 団体（2022 年 2 月現在）で採用される規模となりました。これは自治体に居住される市民の数として合計すると、約 3000 万人の市民を対象としたプロダクトに拡大したことを意味しています。

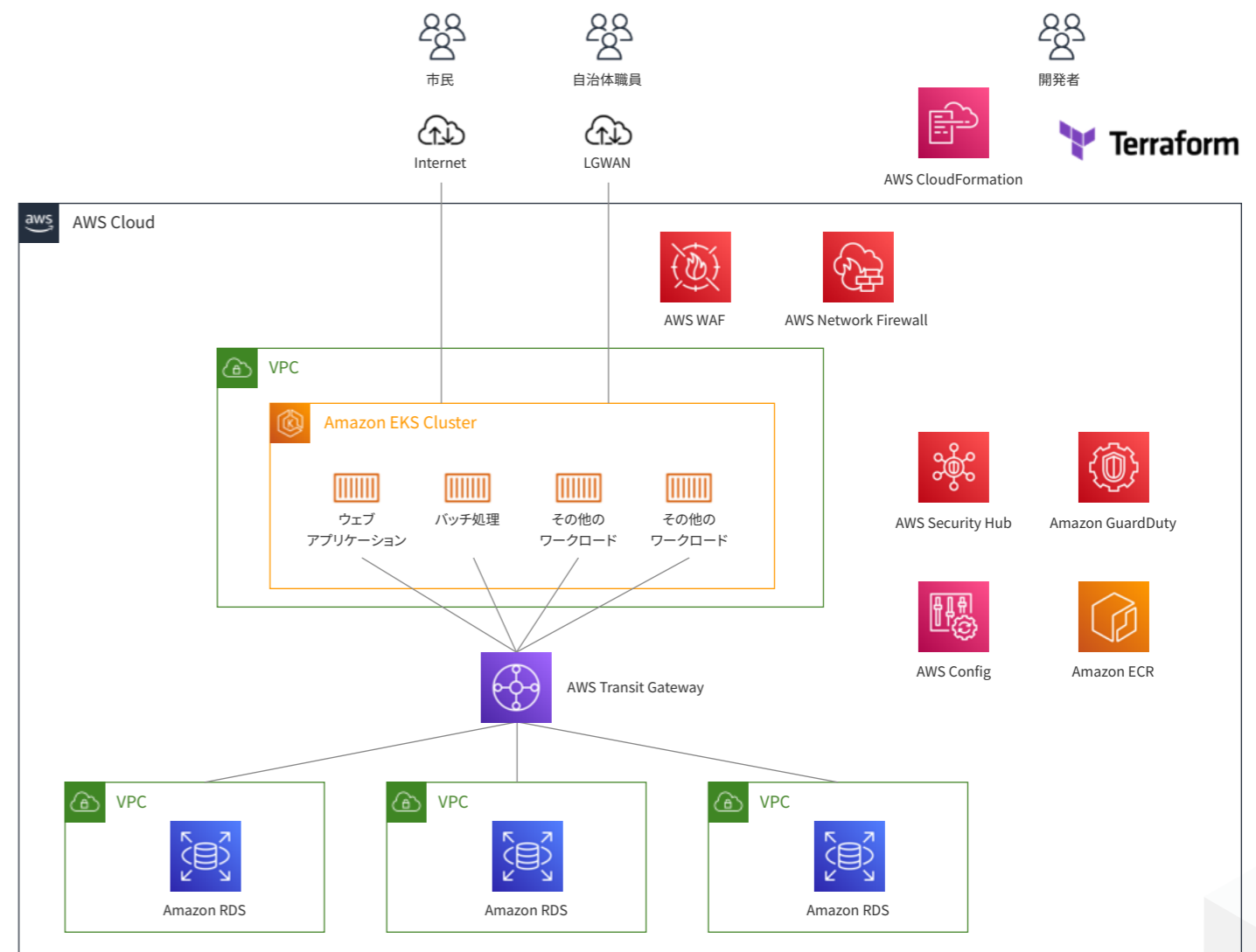
AWS のメリット / AWS だからこそクリアできたポイント

- 多数のセキュリティ的な要件が発生したが、AWS のセキュリティ関連のサービスや豊富なパートナー製品のラインナップを組み合わせることで対応。
- AWS サービスの多くが利用量に応じた従量課金の価格体系を持っていたため、コストを抑えつつ少数の自治体への提供からスタートが可能に。
- クラウド のスケーラビリティと柔軟性を駆使しているため、スケーラビリティに関する大きな課題や不安は発生せず。
- Terraform と AWS CloudFormation を適材適所で組み合わせ使用し、AWS リソースは全面的にコードで管理。ネットワークの構成変更やリソースの増強などを再現性のあるかたちで安全に管理することが可能。

システム情報

<導入した AWS のサービスの構成>

- Amazon EKS, Amazon ECR
- Amazon Network Firewall
- AWS WAF
- Amazon Transit Gateway



今後の展望

AWS のセキュリティサービスの進化と拡充は高速です。それらを駆使して、自治体によりセキュアで便利なサービス提供や利用形態をつくらせて行ければと考えています。また、グラファーでは、行政ドメインを中心として今後も多数のプロダクトやサービスを開発・提供し、日本のDX 推進に貢献していきます。AWS AppRunner といった、より抽象度の高いコンピューティングサービスと豊富な Database マネージドサービスをうまく組み合わせ、革新的なサービスの開発を行っていきたく考えています。

株式会社グラファー お問い合わせ <https://grafer.jp/contact-confirm>